

用語集

索引	用語	意味
こ	ごみ処理システム	ごみの処理に係る、収集から処理・処分までの一連の体系。
し	自然共生社会	生物多様性が適切に保たれ、自然の循環に沿う形で社会経済活動を自然に調和した社会。また、自然の恵みを将来にわたって享受できる社会。
	循環型社会	廃棄物等の発生抑制、循環資源の循環的な利用及び適正な処分が確保されることによって、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷が出来る限り低減される社会。
	循環共生型の地域社会	新たな時代の社会の在り方として定義された。 「循環（環境への負荷をできる限り少なくし、循環を基調とする経済社会システムを実現する）」と「共生（健全な生態系を維持・回復し、自然と人間との共生を確保する）」を目標とした社会。
	焼却主灰	焼却時に焼却炉の底部から排出される燃え殻。
	焼却飛灰	焼却時に排ガス中へ移行した後、集じん器及びボイラ、ガス冷却室、再燃焼室等で捕集されたばいじんの総称。
	省エネルギー	エネルギーを効率よく使用することで、同じ社会的・経済的効果をより少ないエネルギーで得られるようにすること。
す	ストックマネジメント	既存の施設（ストック）を有効に活用し、長寿命化を図る体系的な手法のこと。施設の社会的需要や老朽化の判定、改修時の費用対効果等を総合的に勘案した上で、廃止、改修、新設等を判断する。
	スラグ	一般には金属の溶融プロセスで生成する鉍さい(非金属物質)をいうが、ここではガス化溶融処理方式で発生する融液を冷却して得られる無機物をいう。
	3 R	リデュース (Reduce)、リユース (Reuse)、リサイクル (Recycle) の3つのRの総称。リデュースとは、物を大切に使い、ごみを減らすこと。リユースとは、使えるものは、繰り返し使うこと。リサイクルとは、ごみを資源として再利用すること。

索引	用語	意味
そ	創エネルギー	積極的にエネルギーを作り出すこと。
た	大規模改修工事	燃焼（溶融）設備、燃焼ガス冷却設備、排ガス冷却設備など、ごみ焼却処理施設を構成する重要な設備や機器について、概ね 10～15 年ごとに実施する大規模な改良事業。 ここでは基幹的整備改良（基幹改良）事業と同義。
ち	地域防災拠点	広義には避難地・避難所から備蓄倉庫、救援物資の集積所、がれき置き場、応急復旧活動の拠点、本部施設やその予備施設等の総称。狭義には本部施設や応急復旧活動の拠点の意味。
て	低炭素社会	気候に悪影響を及ぼさない水準で大気中温室効果ガス濃度を安定化させると同時に、生活の豊かさを実感できる社会。
は	廃棄物系バイオマス	紙や食品廃棄物等のこと。農林水産省の「バイオマス活用推進基本計画」にて記載されている。
ひ	PPP 手法	Public Private Partnership の略。 公共と民間が連携してサービスの提供を行う事業形態のこと。民間資本や民間のノウハウを活用し、事業の効率化や公共サービスの向上を目指す手法。
よ	溶融飛灰	ガス化溶融処理方式で処理する際に発生するばいじん。亜鉛・鉛・銅・カドミウムなどの非鉄金属が高濃度で含まれている。